

周易鈔

豫解
井過隨
升

五

豫地

雷地豫



○繇曰豫ヨハ利リ建キ侯ミ行キ師シ 豫ヨハ左サたのノ一イチむとトもむモ也ヤ上ウは

震シ少シとト動ウ下カは坤コンの地チ小チて順ジュンらラ極キョク小コ建ケン侯コウ行キョウ師シとト

上ウ動ドウくク下カ順ジュンらラとト衆シュウ人ジンの心シン居イらラぎギあアらラがガあアらラありアリ

功コウとト作サクをヲとト何ナニをヲ以テ以テ心シン持チちチてテ順ジュン路ロをヲとト小コ動ドウくク人ジン成セイ

あアらラとト全ゼンたタとト任ニン事ジとトあアらラとト定テイむムらラの情セイあアらラてテ存ソンらラりリ

○彖曰豫ヨハ剛コウ應オウ而ニ志シ行キョウ順ジュン以テ動ドウ豫ヨハ といトはハ陰イン中チュウてテ一陽ヨウ

あアらラ極キョク小コ其キ陰インのノ陽ヨウ中チュウをヲ意イまマさサらラとトとト下カをヲあアらラがガひヒ意イ

とト志シ行キョウくクとト何ナニをヲ以テ以テ心シン持チちチてテ何ナニをヲ志シたタ順ジュン路ロ中チュウをヲ動ドウくクとト

く理小者かござればよからざるぞ此に持して天地順
さ心動イ時感ざるぞく天地の道美物の理明路弦心動
たがござるの理小者かごの情小くも記あり

○象曰雷出地奮豫先王以作樂崇德殷薦之上帝
以配祖考モツテハイスノと云ハ高の地ふおて奮フルイヨコリ祭ユヅリく声コエとなき
ハ豫の象あり先王是を見て樂ガク作ツクリ徳となつて夫
小者免先祖配イ一々むらもけん持とん其動ナるを
と徳メツトビ常礼小者かごの情小くも記あり

○初六鳴豫出ハ悦イあり而イニ且ジツ陰柔してシモ小者志シモも

よくよ小者免るカス其シ豫ヨ小ありとよのため小窮キウ故更ラケ
て其志シみちきとありて言コト小者イダ一豫ヨロヒ小ぬけることあり故コト
出ヒと悦イげん持チ故コトはなまマくよ小もにたまけある時を得て
其シこととほりもイロゆるも危イロ小あらじ豫小ほあることナギもシ
小者志シも記あり

○象曰初六鳴豫志窮出也と云は陰柔とんシ小あ

るして其志シと極キウメてハキ豫ヨ小たまタまマ一ヒと驕コオリと歸ホシイニ小シまると
ハよからざるぞけん持とん鳴ナるル時と待マテ志シ不可ベカテ凌シ樂レ不
可極ヘカラキヲムの情シもてよ記あり

○六二 介于石 不終日 貞吉 豫の道たることほしひまき
ふしとくハ凶キ也失とありけあする至而中凶のたぐい記を
心憂ぢるものなき初めあまきこと自よく守と存の堅ガ
どくならぞ凡人の樂ふ於てきりてとてふ是をさよふこ
ぶ時と屋むとあてとざるぞ我も其幾と見て早やむと
ハふ終日 吉なるの義ありけし初と久愛樂ふほあると
た心の情やくよんかり

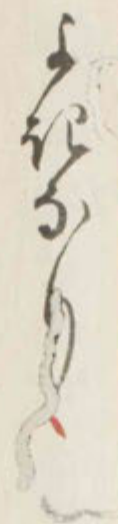
○象曰 不終日 貞吉 以中正也 と言は中凶のたぐい
徳あるまで其守とかけ是を辨ぢる事とやきふより不
終日 吉なるをけし初と初と情ありハ始ハゆるからざるも位
よん初小後程ゆるからむと云義なり

○六三 盱豫悔 遲有悔 けあする而中正のたぐい記を
たぐいとく上の凶とのぞみんたる志まんたまれども進
とそゆるより進退悔あるぞ君子ハん初制まりよ道とる
たよ豫時としども中凶のたぐい初失ざるぞま程よ心から
ざるとは速ちあらためよ記を初せけまハ初悔あらむけん
持たよく情でよんかり

○象曰 盱豫有悔 位不當也 と言は陰陽少と陽の

位ヒ小ある故ユ小位イ不當ラけりたゞ一記とせ失フと何れぞ
を得ルよ我が位ヒ小お急セざる極クなりと成ルる人のそね
むに極ク小情シでも記シたり

○九四ハ由ヨ豫ヨ大有ト得ト勿レ疑レ朋ト益ト簪トはあコ王ヲ知ルハ勅クの主ニ
た々ク少クなりとく道ヲも動シて衆ヲ陰ヲもつコこむあコがあコた臣ナ
どのどキを急シむ得ルよまラ是ヲ少クあコこむよのニ成ルまカせあコどク
も志ヲとク行ヒ天下ノの豫ヲもクの也也ハ心ヲ持シて情ヲ向シまバた
まける記シ屋ヲもキもキ其ノ後ヲ法シくレ疑ル慮ヲとナけキバ朋ト
類ノの也もマるトあコてレ屋ヲもキあコこむと何レの情ヲ也ト
よびシる



○象曰由テ豫ム大有ニ得ト志ト大ニ行キ也トと云ハ我ノもクをレ豫
あコとクも志ヲとクちノ行フと何レと云セ禹ノ王ノ木ヲ治メ
周ノの東征ノ議アリとクよのニもク能キ功アリ也ト情アリ
よに豫アリむと云セなり

○六五ハ貞ニ疾ト恒ト不レ死スはあコりレ而シ陰ノ象ノもレ記ス
君ノ位ヒよあコ豫ノ時ヲ尚クもク豫ノもレ漸クもレ急ク
我がレするもの権ヲとクもレ我ノ才ヲ柔弱小シてよ
らくも豫ヲもレあコりレまクもレ是ヲ制スかシとス

貞疾テイイヌと云ぞ、純ツギ也、主中とゆりより、位イと失ツキざるを
恒ツギニシ不死セと云ぞ、此コノ持モチして、豫ヨ小コとコぐるくクとトるくク、主位イ也
く守ムの情シヨクとトちかり

○象曰、六五貞疾、來剛也、恒不死、中未亡也、ツギニナルハニセ、キウアイニダ、ホロビと云は、
剛のつよにものくクより、何ナニも其コノ終ハヤシなきまの、ためよせまらる
る、少オホもると貞疾テイイヌと云ぞ、純ツギ共、其コノ中ナカの位イ也、此コノ守ムる事コトも
らバ、微弱ビキョクなりとも、よく存ツキる事コト何ナニらむと云義なり

○上六、冥豫成、有渝无咎、此何之至、知陰柔、小て中、
正テイ力リキたぐク、徳トクありむ、頂テイリキニシ上ウエありて、豫ヨ極キョクの時トキなり、より

豫ヨを精セイし、母ハハなりことハ、其コノ豫ヨは、海ウミよりヨり、
こととあらざ、いせ、世セに持モチと、よく度ヒじあらたぬ、主ツキも、
と補ツギキツクて、善ツキ小コ移シの、信シンし、みめて、よむかり

○象曰、冥豫在、上何可長也、クワロフン、メシムニアリ、カミニ、オシツベキ、ナガレと云は、豫ヨとよ、昏迷コンメイし、
目メの、んンつツざるズと、極キョクとなす、何ナニらバ、ワカレヒニシ
長ナガくクと、たつと、ちかづ、世セに持モチと、豫ヨの、スダク
知チくクあらたむる、厚コトうウよ、情シヨクとトちかり

○元龜曰、鳳凰生、雛之課、ホウ、ワウ、モウ、カ、ノ、ス、ウ、クと云は、子孫シソンより、
よく、成ナるルと、めづむ、主ツキあらバ、スダク

むと云々あり

○ト解曰豫者和樂也人の心厚らうと云々
其の地より養して弟拘城をくもふらうと云々
さぞけいれおゆくと云々其時よたがはる行あらうと云々
あしがらん陰徳の時あらうと云々弟貴よあふと云々

○ト彖曰物見春陽生成咸遂と云は弟物の陽氣をうけ
生ざらうと云々人も溫和あるんおふて豫と云々
福祥のさといひあると云々

雷水解

○繇曰解利西南无所往其来復吉有攸往
夙吉 解らうと云々西南豊平易の地か
どり物の難とけく人の苦さともうと云々

○彖曰解利西南无所往其来復吉有攸往
夙吉 解らうと云々西南豊平易の地か
どり物の難とけく人の苦さともうと云々

○象曰解除以動動而免乎險解
と云は象を以て動して險を免るなり

あるハ陰難とのがまおく解の義成得たりけんおと
心行^レききとある者なづむとなくあのごとあらば天
地解^{トケ}く高^コぬ作^{ツクリ}百^{ヒャク}葉^{エフ}草^{ソウ}の生^ナぎらる^ルとく^{トク}もあらむ然^{シカ}
らバ思^シ慮^リを施^{ホト}し兆^{チョウ}民^{ミン}伐^{バツ}養^{ヤウ}の義^ギあるとく^{トク}も成^ナり

○象曰雷雨作解君子以赦過宥罪と云ハ天地の
氣散^クとく高^コぬ作^{ツクリ}の時^{トキ}あり君子は象^{シヤウ}とらん^ルとく^{トク}も過^{マダシ}を^シゆる
罪^{ツミ}成^ナらむとぞけんおとて^{マダシ}あると^ニ赦^{シユル}罪^{ツミ}ある^ルを^シゆる
小^シ從^シ思^シ慮^リと^シん^ルを^シゆる^ルの^ル情^{シヨウ}ある^ルと^クも^レ成^ナり

○初六无咎^{ハナシトガ}言^{コト}あると^ラ解^{トケ}の^ル初^{ハツ}なり^ルより^シ患^{ウヰ}心^{シン}も^レ難^{ナシ}
と^クる^ル時^{トキ}の^ル初^{ハツ}の^ル言^{コト}ある^ルと^クも^レ陰^{イン}象^{シヤウ}と^クも^レあ^リま^シ
其^{ソノ}剛^{コウ}陽^{ヤウ}の^ル位^イは^レ居^ルと^クも^レある^ル言^{コト}ある^ルの^ルなり^ル心^{シン}お^とし
身^ミお^とし^テ正^{マシ}と^クも^レ情^{シヨウ}あら^バ患^{ウヰ}難^{ナシ}の^ル初^{ハツ}なり^ルと^クも^レ初^{ハツ}解^{トケ}去^ク
吉^{キチ}なり

○象曰剛柔之際義无咎也^{カウジウノマダシハギニイテナシトガ}と^クら^バ陰^{イン}象^{シヤウ}と^クも^レあ^リま^シ
あ^ました^ク陽^{ヤウ}剛^{コウ}の^ルた^クま^シや^レ患^{ウヰ}ある^ルの^ルも^レあ^リま^シら^リと^クも^レ剛^{コウ}柔^{ジュウ}の
交^マり^テと^クも^レあ^リま^シら^リけん^シお^とし^テ情^{シヨウ}あら^バ无^ク咎^{トガ}なり

○九二田獲三狐得黄矢貞吉^{クニニエウリサンコウエテカウシヨクテイニメキツク}けん^シある^ルと^クも^レ陽^{ヤウ}剛^{コウ}
少^シく^シ中^{チュウ}の^ル義^ギと^クも^レ小^シ患^{ウヰ}と^クも^レ時^{トキ}は^レ用^{ヨウ}ら^るる^ルの^ル義^ギ

徳シ共小人モウもろくはあましく貞キを害せんときまものカを田
獲ラ三サ瓶コこそく是トをさシくく君ノの心トを正す剛申ノ
道行行く者ありこばん持小く群邪邪のあらぬものを除キ
ちカく英矢中直方り情ありませし也

○象曰九二貞吉得中道也。といふは邪惡ジヤのあらぬき
らのと除キ去ッて中直ノの道と行ハばおよぶ正キと守リ害を去ス
ゆらよしく威イ赫セありまくまなりなり

○六三負且乘致寇至貞吝。けあらまらん陰柔
あくトのよめ形ラと陰柔の小人トなりまあまく物を負

ざらのと解つ解るつ解る小情とまなりなり

○六五君子維有解吉有孚于小人。けあらまらん言
信小ありまく解のまり君子の親比しくあらまるものハ君子也
を解キ去ス知ルのものハ小人なりま後よ小人の道を解キ去スバをのつから
君よまくむまととゆく道行行く者なりけばおよぶ情で小人の
道退退ル極みくまなり

○象曰君子有解小人退也。と云ハ君子のとままらるものの
ハ小人なりけば持まいけば極の位に居て八時の難を解キ去スのに成り
用くまらなり

○上六公用射隼于高墉之上獲之无不利 是也
王知と尊貴の地也よと云也解の極よしく一人もとばざるの
ありバも道と心のころ害とぞに去付ら難事 解屋て利あ
るもとまるあり 君子ハよに忘と申よかく時と待とて功と成
まけん物成はくしてまてよはかり

○象曰公用射隼以解悖也 と言と解の終りよあそくどけ
ざるものハ悖の大なるもので是と解去付ら平なるよと成けん
持もくあしにのよとバあるもどけよけくもあかり

○元龜曰春雷行雨之課 と言はるるよ苦あめらるものも去
荷^{ニナフ}屋^{ミヤ}き^ミと^シ車^{クルマ}の^ノる^ルことハ^ハを^ヲ信^{シン}の^ノも^モあ^ハら^ハむ^カ却^カて^テ寇^ク乃^ハ
至^シと^シて^シて^テ其^ノ道^ノ也^{ナリ}今^ノ難^ノの^ノ解^ノ時^ニは^ハ尚^モく^モ小^ノ人^ノの^ノ身^ト
しく^ク君子^ノの^ノ乗^ルぎ^キ車^ノ小^ノの^ノる^ハ似^ニ合^ハざる^トを^モ我^レ者^ノ小^ノ人^ノ
の^ノ行^ヒと^シ改^ムく^ク君子^ノの^ノ身^ヲ持^トとなり^{ナリ}車^ノよ^ク乗^ル禮^ノの^ノ情^ヲあら
バ^ハは^ハかり^{ナリ} 自我^{ヨリ}致^ス我^ヲ又^テ誰^カ咎^ム也^{ナリ}

○象曰負且乘亦可醜也 負^ヲ荷^ヒの^ノ小^ノ人^ノは^ハ君子^ノの^ノ車^ヲ
乗^ルは^ハ不^レお^ハ意^ナなり^{ナリ}其^ノ徳^ヲよ^クか^ルと^シて^テ寇^ノの^ノ或^ルこと^ヲを^シて^ハ
我^レより^ク侮^ムく^クと^ナり^{ナリ}は^ハ我^レが^ノ外^ノの^ノと^シて^ハ未^ダざる^{ナリ}
情^ヲと^シて^ハかり^{ナリ}

○九四解而柶朋至斯孚 けあするをあら剛陽の才にして

上位者居君は位あるの大位なり然るも下の陰柔のもの小

位にしてあつてむ心あるも大位のもの似合ざるをよき

人あるを記去とあるはかのしよ言く陰柔はからざるものと氣

去て君子のうに朋来とバ字小叶くも世に物ある少人のあき

もの中交なき柶小くもに朋来は情あるを也

○象曰解而柶未當位也 といふは剛陽なるものと陰の位

なるはよ位あるをいふて少人といふも言あまはま

失つとありは柶の事ともいふ言出のものるまに共から

至て憂あるものうも言ひけり喜慶あらむと云ふあり

○ト解曰解者難之散也 といふは難なることある共解

散て柶路よあらむと云ふあり

○火贖曰解者散也出於陰難惡夏消散 といふは夏

しきと消散の事と云ふは凡しよふ叶との解つるの事也

○ト彖曰春行雷兩方夏將亨萬物の陽氣成るを

いひめらむと云ふはからざるを散れぬをいふも逆時

節よありあり陰性ぞ積る陽性ぞ成る情あるを也

雷風恒

○繇曰、恒亨无咎、利貞、利有攸往、恒其德、

婦人之道、恒其德、利貞、利有攸往、恒其德、
婦人之道、恒其德、利貞、利有攸往、恒其德、

君子の身、如の常なる道、恒其德、利貞、利有攸往、恒其德、
君子の身、如の常なる道、恒其德、利貞、利有攸往、恒其德、

係の恒其德、利貞、利有攸往、恒其德、

○彖曰、恒久也、剛上而柔下、雷風相與、巽而動、剛柔

皆應恒ミナ、恒コラシ、さしは剛の法にたのよみあるまで、原のくさき
道のりよあるハ恒たるの道あり、憂ぬらひほをこり、遠チカシク花を
まざるごとく、りするよの、よのよよ陸ひと下交て弊ヒをたまけ、
久しき行ひと屈むる変なげき、天の道子かめあてよ記あり、
けし折ゆくと、何時、夏紀の常よ、あづとざる、屈う子、恒あるまで、其
功成、乾アして、ちるよ、

○象曰、雷風恒、君子以立不易方。と云ハ、雷と風との
相互して、恒あるの象と、君子は是と云いて、其徳と、常と云ふ
し、程の正しきと、前カハと易カハざるぞ、けし折ゆくと、夏ニシは震ドク動する

時よ全ても、常のちり、と動カさば、常の道は、義イかざる、恒
小恒でよ記あり、

○初六、浚恒、貞凶、无攸利。と云ハ、恒たるよありて、よよ正
き意カミむカミき、よのあつとヘつとヘつと、隔ヘあつとて、我コトよ意カミむカミる、変コト常コトよ失
ちる、初よ、全ミ抑ミなま、変ふかく、常コトよ泥コトで、利カまるカとよ、ゆきは心
折コトゆくと、未キ変コトありコトども、あまり、あつくと、全ミむ、理カよカなつと、まカげして、
あキまカより、なまの情カめて、ちるあり、

○象曰、浚恒、凶始、未深也。と云ハ、恒の始カよありて、全ミ
未キよの深カハ、常コトよなつとむて、時の弊ヒと知ラぶカよカより、まカて、凶キぞ、

は心持候以交りの保きく度きものぞむとも辨と察する候も
てふ候あり

○九二悔亡 けあくる至而八陽まで陰の位にあるハ理の常であ
らざして悔る度あま共中の徳をいふよ意ざるより凶と不
味くして悔る度なれどは心持めく剛中の正徳を安ぜざして
道ぞちてよよお意ざる候も情でふ候あり

○象曰九二悔亡能久中也 ことハ二悔亡なり記ととゆる度
ハ中の道候久し全ちまよるぞ人よく久しかるべきの道
於て中を長く帯よつてあらわらざる不及なれして候あり

○九三不恒其德或承之羞貞吝 けあくる至而八陽まで
陽の位にあるハ主位たぐしことごとく剛よりく其志よよあ
まがふと久しからざして主帯ならざるよる羞辱のまづり
しめと義の度ありむは心持をい主徳を情恒より久し候も
情ぞく候あり

○象曰不恒其德无所容也 ことふハ人として主徳と帯
ふせざれば其身をいつか知られがどしよくは心持を情でよ下二陽
のありありあり進退する度人よ容らきて羞しめと安ざ
る候も情ぞく候あり

○九四田无禽^{ハカリニナシキニ} け畜^キ 知^チ陽^{ヤウ}少^シ 陰^{イン}の位^イ 未^ミ 小^コより 王^{ワウ}位^イに
あ^アこらむ^コして 辱^{ウツク}む^コれとあり 凡^{ソド}人の名^ナは 我^ガが^ガあ^アこら
む^コる^コを^コま^コる^コハ 常^{ジョウ}して^コ功^{コウ}を^コき^コま^コる^コ 回^{カヘ}して^コ 獲^{ウケ}む^コる^コ 故^{コト}に
折^ヒぞん^コ 我^ガが^ガの^コな^コま^コづ^コき^コま^コる^コ 如^ニは^コ 我^ガが^ガま^コる^コて^コ 事^{コト}に^コあり^コ

○象曰久^{ヒサシク}非^ズ其^ノ位^ニ安^ク得^ル禽^ニ也^ニ と云ハ剛陽の位^イに^ニある^{コト}
ハ王^{ワウ}位^イに^ニあり^{コト}なる^{コト}に^ニ 王^{ワウ}の^{コト}功^{コウ}を^{コト}な^{コト}ま^{コト}する^{コト}に^ニ 禽^ニを^{コト}捕^トる^{コト}
ざるが^{コト}に^ニ 故^ニに^ニ 折^ヒぞんと^{コト} 考^{コウ}ふ^{コト}に^ニ 正^シ時^ジハ^{コト} 正^シに^ニ あり^{コト}

○六五恒^{コト}其^ノ徳^ニ貞^ニ婦^ノ人^ト吉^ク夫^ト子^ト 凶^ク けあ^{コト}する^{コト} 知^チ 陰^{イン} 柔^{ジュウ}

と云九二の陽剛^ニは^{コト} 意^{コト}を^{コト} 終^{コト}る^{コト} 故^ニに^ニ 凶^ク と云 王^{ワウ}の^{コト} 剛^{コウ} 柔^{ジュウ} 恒^{コト} 子^シ 久^{キウ}

し^{コト} 事^{コト} すれば^{コト} 貞^ニ 婦^ノ 人^ト として^{コト} 考^{コウ} ふる^{コト} 故^ニ に^ニ 折^ヒ ぞん 婦^ノ 人^ト として^{コト} 事^{コト} すれば^{コト} 貞^ニ 婦^ノ 人^ト
の^{コト} 名^ナ として^{コト} 考^{コウ} ふる^{コト} 夫^ト 子^ト たる^{コト} の^{コト} 人^ニ として^{コト} 事^{コト} すれば^{コト} 貞^ニ 婦^ノ 人^ト
を^{コト} 失^ク する^{コト} 凶^ク の^{コト} 道^{ミチ} 也^ニ 折^ヒ ぞんと^{コト} 夫^ト 子^ト たる^{コト} の^{コト} 道^{ミチ} 也^ニ 失^ク する^{コト} 故^ニ に^ニ 恒^{コト}
を^{コト} 考^{コウ} ふる^{コト} 事^{コト} すれば^{コト} 貞^ニ 婦^ノ 人^ト として^{コト} 考^{コウ} ふる^{コト} 故^ニ に^ニ 折^ヒ ぞんと^{コト}

○象曰婦人貞^ニ 吉^ク 従^フ 一^ニ 而^{シテ} 終^ス 也^ニ 夫子制^ス 義^ニ 従^フ 婦^ノ 人^ト 出^ス 也^ニ

と云ハ六五の陰柔^ニは^{コト} 九二の陽剛^ニに^ニ 従^フ 夫^ト 子^ト 制^ス 義^ニ 従^フ 婦^ノ 人^ト 出^ス 也^ニ
正^シに^ニ 考^{コウ} ふる^{コト} 故^ニ に^ニ 折^ヒ ぞんと^{コト} 夫^ト 子^ト たる^{コト} の^{コト} 人^ニ として^{コト} 事^{コト} すれば^{コト} 貞^ニ 婦^ノ 人^ト
夫^ト 子^ト たる^{コト} の^{コト} 義^ニ 従^フ 婦^ノ 人^ト 出^ス 也^ニ 夫^ト 子^ト たる^{コト} の^{コト} 義^ニ 従^フ 婦^ノ 人^ト 出^ス 也^ニ
道^{ミチ} 也^ニ 故^ニ に^ニ 折^ヒ ぞんと^{コト} 夫^ト 子^ト たる^{コト} の^{コト} 人^ニ として^{コト} 事^{コト} すれば^{コト} 貞^ニ 婦^ノ 人^ト

の爻よ心をさうつゞる厚くも情ぐきあり

○ト象曰ツチニイテ常居キヲ奮職キヲクニナカレ莫モ西東セイトウスルと云ハ常よもどまり行つと

とくつとあて爻ド動つ爻とあるづくど心持を清浄し

情あらば時の宜キをあつむと云義あり

○十干詩断曰キニシ貴人相持アイセリ引イニス不久ズソ到天ヒサシカライタル開アシと云とく

とく人よ依リ天ノ開キありて陰キ爻ハシ多ク繫エイ業アありて吉

るの義あり

地風升

○繇曰ミヤウハヲヒニトラル升元亨用見大人ミルニタイジシヲナシ勿恤ウレラレトナシ南任吉セイスル寸ハキツ升ハのち

とくむミ卦ミ升ノ進スとある故也其善なる才と云大人

とくんノとくク正シしてシ大人ノはハ進スてシ紀ノ南ノ方ハ明カなり

道の明あり方小進む厚くも情ぐきなり

○彖曰ミヤモツチトキヲノカル柔ニシテ以テ時ニ升リ巽ニ而シテ順剛中而應是ニ以大亨トと云ハ

陰柔の厚くつらなるもの升ル小時ニ心ニまリ故ニ下ニもナらズがハ順

路ニ中ニしてシたリ故ニ其ノ升ル道ニ行クと大人ノはハよりシ信ニめテなり

とくむとハ大人ノはハ進スてシ紀ノ遠ニ志ヲ行キ相ニ信スてシ

○象曰地中生木升君之子以順德積小以高大 象ハ木
の地中生る長まるハ升の象也君子是之象也君子は
小を積ぐ大を成る凡ハ順れば進退を忘るるは如く
てよく徳を積ぐ名を成る極也皆よく成るなり

初六允升大吉 升り而して巽仰のトあり柔順にして九
四剛陽の才小うけきこひ升の時より當て上あるもの中より意
ざる者たはよき也けん初より柔順にしてよく上り向るもの小
柔にして升進の情中て人吉あり

○象曰允升大吉上合志也 象ハ上より下の志を合せて
同升たし滞あらずて人吉ありぞけん初よりよく剛性あり人吉
信じて進進をありて吉あり

九二孚乃利用禴无咎 象曰柔順之剛剛
上の六五ハ陰柔あれ共亨信より向るなり陽上の陰よきこひ剛
たし柔よりよきを勝はしてなまぬよして徳を積むるは
よし吉く信じて禴を用ひよく徳のまことありて人吉なり
をこりたるかぎりなく意欲以上よき徳を感通あらむと云ふ

○象曰九二之孚有喜也 象ハ孚のまことありてよき法は
るハ大信の道よりして我よりなきものよきありて衆人よき

正何り、はら持少く、廢EDUJIを衆くす及ま程よ、よき意イ字トあり、
情あるまて、よ記あり、

○九三、升ハノボル虚キヨ邑ユラニ、はあり、而も陽剛の才オ志シ正ヤ位イ子コ居ユり、よき志、
くひ、又、意コワ接エンのたきけあるまて、升シ人ニあき、の邑サトよ入イり、くぬせ、
は、はら持少く、進シ事カヒ小コ疑ウタガハシあり、よ記あり、

○象曰、升シ虚キヨ邑ユラニ、无ニ攸トコロ疑ウタガハシ也、と云ハ、虚キヨ邑ユラニの、人ニあき、邑サトよ入イり、
疑ウタガハシあり、厚コトく、るもの、は、はら持少く、主メ進シ升シよの、易ヤスく、物モノの、礙サマあり、
よ記あり、

○六四、王用亨コトヲシ于岐山ギサニ、吉キツク无トガ咎トガ、はあり、知チる、柔順ニの才オあり、
よハ、君ミコの、よろよあり、かひ、下シり、の、進シよあり、かひ、我ワハ、も、而ニよ、止トまり、
從シ主メの、岐山ギサニの、下シよあり、上ニ天子テンシよあり、かひ、下シ、天下テンカの、賢ケンよあり、
かひ、柔順ニ謙ケン恭キョウよ、して、情ニを、位イと、不コトおの、位イ多タの、正ヤじ、はら持少く、
よき志、かひ、よき志、あり、を、道ミチ、極キョクは、く、まの、情ニを、よ記あり、

○象曰、王用亨コトヲシ于岐山ギサニ、順事也、と云ハ、君ミコよ、進シき、位イよ、変カり、
の、時トキあり、りて、其コトの、正ヤじ、ハ、唯タよ、して、位イ多タあり、よ、れ、正ヤじ、はら持少く、
よき志、かひ、よき志、あり、を、道ミチ、極キョクは、く、まの、情ニを、よ記あり、

○六五、貞テイニシ吉キツク升ハノボル階ハシニ、はあり、至ニ知チら、り、而も、剛コウの、賢ケン長チカあり、よき志、
たきけと、成ナり、よき志、かひ、よき志、あり、を、道ミチ、極キョクは、く、まの、情ニを、よ記あり、

正を守てちかりは心持を慎其にたきや未て用とをなき
ハ階より升とく事なる屋をからんと云々也

○象曰貞吉升階大得志也 与云は賢才のよきもの小任
して其身を正してトと活る時を家國よくをさへりて階を升
かどくなくむは心持を慎とくもたかり

○上六貞升利于不息之貞 け否、処は陰柔をて升の極
あり小なり升るがらきぞけ時進とて知く止とを知らざるはよ
からざるぞ去るも進とて未の心と貞正守て厚まざるの心と
擯用し時を利するとありむよくは心持を慎小人の欲貪の心と
徳を未の心と擯用とあり

○象曰貞升在上消不富也 与云ハ升の極小なりて止るを
あきらむれば消えてして益ありよく其かをさる情と云々也

○元龜曰高山植木之課と云ハ高は山の本を植るごとく其道漸と
長じて積小成大と何れもむと云々あり

○ト解曰升者進而上也と云みよるをたよハ本の心よ生じて漸と
ぬきりてくもの心持してよなり王公大人よまきて情あはれ
道よ進みのるをあらむ

○ト彖曰君子升進益固積徳 与云は君子は徳を積む物と

ふらびあらむ。徳ツツキバ時ツツキも暇ツツキなり。富ツツキ貴ツツキ長ツツキ年ツツキの樂ツツキあらむと云ツツキ
遠人エシジン官クワン徳ツツキと云ツツキるツツキ変ツツキあらむ。

○ト象曰ゾウジ万マン復フク漸シヤン升シヤウ時トキ欲ホフス進ススム物モノどトク富フ貴キ長チヤウ年ニヤウの樂ラクあらむと云ツツキ

○十干詩トコロユク断曰リヤリ彼ヒ往ニ利リ東トウ南ナン青セイ天テン日ジツ正テイ明メイと云ツツキは其シ進シヤン往ニ処ト東南トウナン也

利リあるツツキどツツキも我ガも意イまツツキるツツキ如ニそツツキのツツキ如ニ時トキをツツキ時トキ座ザらツツキみツツキ道ミチ不フもツツキらツツキてツツキたツツキかツツキらツツキぶツツキるツツキ時トキ也

天テンの令メイ亨トウリてツツキ第ダイ變ヘン淑シュク純ジュン志シと云ツツキ云ツツキ義ギ也

○評曰ヒヤウ升シヤウ者ハ進シヤン也ニ木キ生シヤウ並ニ於ニ地チ萌ホウ芽ガ漸シヤウ長チヤウと云ツツキは其シのツツキ生シヤウじてツツキ其シ

芽ガ漸シヤウと云ツツキまツツキ長チヤウむツツキるツツキどツツキも山サンをツツキ積ツツキむツツキ人ジンをツツキかツツキきツツキ積ツツキむツツキ道ミチのツツキ如ニかツツキらツツキぶツツキまツツキらツツキむツツキ建ケン

のツツキ如ニかツツキらツツキぶツツキまツツキらツツキむツツキ也

水風井

○繇曰セウ井セイ改カ邑イ不フ改カ井セイ无ム喪サウ无ム得トク往ニ來リ井セイ之シ泥ニ至シ亦モ未ム繻ス井セイ羸レイ

其シ瓶ビン也ニ井セイ之シ常チヤウ有ユウ也ニ改カ之シ其シ水スイ也ニ汲キツ之シ也ニ其シ水スイ也ニ汲キツ之シ也ニ其シ水スイ也ニ汲キツ之シ也ニ其シ水スイ也ニ汲キツ之シ也ニ

これツツキ也ツツキ汲キツ之シもツツキ時トキくるツツキもツツキ如ニ此コノのツツキはツツキ井セイのツツキ徳トクのツツキ常チヤウ有ユウるツツキありツツキこれツツキも

もツツキりツツキ也ツツキ来キタルもツツキ此コノ井セイ也ニ用ヒてツツキ人ジン也ニ其シ水スイ也ニ汲キツ之シ也ニ其シ水スイ也ニ汲キツ之シ也ニ其シ水スイ也ニ汲キツ之シ也ニ

もツツキりツツキとツツキ汲キツむツツキらツツキむツツキもツツキ常チヤウ有ユウるツツキ也ニ其シ水スイ也ニ汲キツ之シ也ニ其シ水スイ也ニ汲キツ之シ也ニ其シ水スイ也ニ汲キツ之シ也ニ

もツツキりツツキとツツキ汲キツむツツキらツツキむツツキもツツキ常チヤウ有ユウるツツキ也ニ其シ水スイ也ニ汲キツ之シ也ニ其シ水スイ也ニ汲キツ之シ也ニ其シ水スイ也ニ汲キツ之シ也ニ

もツツキりツツキとツツキ汲キツむツツキらツツキむツツキもツツキ常チヤウ有ユウるツツキ也ニ其シ水スイ也ニ汲キツ之シ也ニ其シ水スイ也ニ汲キツ之シ也ニ其シ水スイ也ニ汲キツ之シ也ニ

○彖曰イ巽シヤウ乎ニ水スイ而ニ上シヤウ水スイ井セイ之シ養ヤウ而ニ不フ窮キウ也ニと云ツツキは其シ水スイ也ニ汲キツ之シ也ニ其シ水スイ也ニ汲キツ之シ也ニ其シ水スイ也ニ汲キツ之シ也ニ

坎水カンスイより、シハ鑿本ソシキニ本綫鑿ボリて、シラズとシテ水ケヲ取上ケルル
井イデと汲クの事、水カヲ汲クと目ヒ子用モチイて、シラズとシテ、抽水クスイ者ハ
と窮キヨリるきりのハ、井イデ此コゆあり、然シテ若シ綆繩ツリイトヒバ破損ハカする時、水カヲ
汲クの用ヲかゝらゞと、其ノ徳トシテあるても用ヒるけきハ、功カとカるま
何レとシテ汲クに抽水クスイ者ハ事トシテと、路ヲをシテせざるやうニ、情シテもレ
○象曰、木上有水、井君子以勞民勸相、キノウレハミヅ、セイニクシ、シヨモツツマヤラヒタミ、スハメタスク、
とリとシテ、君子ハ井ノの徳ヲ
施シんて其ノ民ヲと節ヲ牙ニ教ヲ勸メて相養ニ志ヲむルぞ、けし抽水クスイ者ハと
民ヲ取ルるいハ民ニ上ニ也、取ルるより、我ハ徳ヲと取ルるいハ人ノの
飯ヲ給スるやうニ、情シテもレあり、

○初六、井泥不食、舊井无禽、イヒチコフコト、スツラハレ、キウ、セイニオナシ、キン
け何レと目ヒ、此ハ陰柔ノの才アリと
レ、何レと目ヒ、君子ハ意ヲ獲ルのたシけるに、也ハ同ノ井ノの事ナリと、何レ
て、食ハまじきニ、禽ヲもえんハ、也ハ、人ノ也、取ルるいハ、抽水クスイ者ハの功ヲ
も、取ルるいハ、抽水クスイ者ハ、人ノ也、取ルるいハ、抽水クスイ者ハの功ヲ
何レと目ヒ、情シテもレあり、

○象曰、井泥不食、下也、舊井无禽、時舎也、トキニスツラハレ、
と云ハ、陰ノと目ヒ、
あるは、同ノ井ノの水ヲ、取ルるいハ、抽水クスイ者ハの功ヲ
也、と云ハ、時ヲ舎ルるも、たゞの才アリと目ヒ、
うけり、物ヲとす、功カと、取ルるいハ、抽水クスイ者ハの功ヲ
と云ハ、情シテもレあり、

○九二井谷射鮒癩救漏

此河に王雨は剛陽の才あまき若らよ

あるそよよ子意むらよのふきあま下流して鮒そくぐじ井

中より上行して人ぞ若らひ抽鮒救と河にきよま意むら物

るよして癩の破漏て月城城入の功句此心持よよ意

物よのと増えりよ私の親ふに厚よ情できあり

○象曰井谷射鮒无與也

とよは井とのざりお城の功とるを

とあるありりよ河りてよよ意むらよのふけま月よ

がよ此心持とよよらよきよらよのあまて我陽剛

の才と汲とテららる屋よあまて若あり

○九三井渫不食為我心惻可用汲王明並受其福

河に王雨は陽剛よ其汲ぐに子居て月城ふまの才河ま

どもりのよよ河るは井下此木よて清とつ志其用城場

ざらがじとされ若汲取時と月とるま才河りゆらるま

是地あげ用バ衆人よふらひ城及びしてよ福河らむ

ふあかり

○象曰井渫不食行惻也未王明受福也

とよは井とのざりお城の功とるを

とあるありりよ河りてよよ意むらよのふけま月よ

どらばとよ来^メられて福あると地^イ壇んといふ事あり

○六四井甃^{イハクニミナシ}无咎^{トガ} 此何^レ王^ノ下^ニはたぐ^リ記^シ位^ニよ^シて中^ニの^ノ邦^ニ

子^ニ兼^テと^シて^テ陰^ノ柔^ノ乃^チ大^ニ拘^ルと^シ濟^スの^ノ功^ニと^シ廣^クむ^ルと^シ何^レ言^フ言^フ

も^レ通^ス地^ノ守^リも^レ事^ヲ成^ス修^メて^テ居^ルの^ノ美^ニ此^レ少^ク持^テ子^ノ井^ノ表^ニ此^レ道^ヲと^シ流^ス

情^ニで^テ善^クあり

○象曰井甃^ニ无咎^{トガ}脩^ム井^也 此^レ小^ニは^レ能^ク甃^ル甃^ルを^シて泥^ヲ防^グて

水^と流^スを^シむ^ルと^シ邪^ヲと^シ固^ク謀^ル成^ル存^スる^の情^{あり}と^シ記^スあり

○九五井冽^{イハクニヨラメセニ}寒^ニ泉^ニ食^ス 此^レ何^レ王^ノ知^ルと^シ言^フ信^スる^の故^也其^レ才^徳

の^ノ善^ク成^ル居^ル一^ニ美^ク成^ル居^ル一^ニ井^ノの^ノを^シ泉^とと^シ冽^人子^ノ美^ク

せ^らま^さて^テ井^ノ才^徳の^ノ道^ニ至^ル善^クありと^シ記^スけ^レ少^ク持^テも^レ我^レ徳^とと^シ

う^ん子^ノ美^クる^の情^{あり}と^シ記^スあり

○象曰寒^ニ泉^ニ之^レ食^ス中^ニ正^也 此^レ小^ニは^レ井^ノの^ノを^シ泉^とる^ハ井^ノの^ノ善^ク

る^ハと^シて^テ中^ニ此^レ才^徳も^レあり^{たる}ハ^レ衆^人成^ル利^一也^也何^レ言^フ

我^レ徳^の冽^ル振^ルも^レ少^ク持^テも^レ善^クあり

○上六井收^{ハイクミヒツテナシ}勿^レ幕^フ有^リ孚^ニ元^ニ吉^ニ 此^レ何^レ王^ノ命^ニは^レ計^シ卦^ニ此^レ流^スも^レ井

と^シ流^ルの^ノ功^ニ成^ル知^ルと^シ何^レ言^フと^シ汲^ル取^ルても^レ水^の流^ルる^とを^シ記^スけ^レ

少^ク持^テも^レ善^クの^ノ道^ニ地^ノ守^リ博^ク施^ス泉^ヲ濟^スの^ノ情^{あり}と^シ記^スあり

通^スと^シて^テ其^レ利^ヲ完^ク成^ルく^も其^レ大^ニも^レ成^ル知^ルと^シ記^スあり

○象曰元吉在上大成也。こつふは、大なるの道也。こつふは、
井、其の道の成能せらるり。けんちや、情を誠と慕ふ。こつ
て衆人と煮てあへば、天下を煮て、人よかあてをあら
○元龜曰、珠藏深淵之課。こつふは、深淵に珠を藏し、あつて
物よあへらるる。こつふ、泉ふくく。静子守て安し。行の
けんちあへて、けんちなり。

○卜解曰、井者、空地出水之處、物の変じなき。こつふ、井の
て、こつふ、常地守り、情をよき。こつふ。

○火贖曰、井者、静也。守身勿動、守道无虧。こつふ、井の
静し。こつふ、井のきり、まらるる。まらるる。身と心と守て、あ
けんち、動まらるる。けんち、虧とる。けんち、情をよき。けんち、

○卜彖曰、君子安恬、可以為福。こつふは、君子は、こつふ、道にあ
ぢる。と福と、少人を多欲し。こつふ、未、妄らるる。が、あし、福と、文ッ
こつふ、善、成、積て、あむせば、福、何、うんと、こつふ、多、あり。

○十干詩断曰、九仞功成、後千山歩む。こつふは、九仞の苦、若
も、こつふ、よ、安し。こつふ、は、こつふ、あ、る、せ、バ、千、山、の、言、に、も、あ、ら、ら、
こつふ、こつふ、こつふ、けんち、得、よ、常、ま、ら、る、肉、子、樂、と、けんち、の、義、也。

○澤風大過

○繇曰大過棟橈利有攸往亨、大過ハををひよま

ぐるともむぞ、卦陽上乾と坤中よあつまり、上下陰よて、まはれ

小棟橈と云、ま任ざる隻の重の義也、我まらる程まことなり也、

あとさか記初をこり昔よはゆみかく行、おき時ハ利きる隻あり、

けん持あく内たりざるんかく、理よあく、即つま記よ、

よふこむし、事と義とよかふる、枯よ、情あまて、

○彖曰大過者過也、橈本末弱也、と云ハ、上下二陰よりて、

ふは陽さかんふる、大、ふるものさると云ぞ、卦の義あり、

剛陽あるとつ其中を以て小より、王位ある知中を失くすあり、
醫性あるを以て和悦の厚らぎ、あるを以てきよきと以て行つたは
利ある也、はた持少く、剛強あるを以て厚らぎにして内を以て心
あり、外厚らぎく、義ありて行ひ、ふきの情少く、長なり、

○象曰澤滅木大過君子以獨立不懼遯世无悶

このふは、はたはありて、木を潤し、長、あるは、今に木を
漲て、本を滅没する、少あるは、大なるものぞ、君子は象を以
て、獨立して、不懼、遯世、无悶、是、事の、人よ、大なるもの、行あり、
はた持少く、大なるもの、守り、天下を以て、是を忘れた、

かつ、まんぎ、人よ、あらまぎ、これを、悔する、情少く、よ、はあり、

○初六、藉用白茅、无咎、

あり、地よ、を、まき、錯ても、よ、は、の、と、茅を、以て、大なる、情、乃
る、る、が、よく、なれども、厚、子、ある、の、道、た、よ、終、ふ、き、ぞ、は、た、持、よ、他
の、と、よ、は、さ、ぎ、る、極、よ、は、つ、け、事、と、不、静、よ、あ、む、て、よ、は、あり、

○象曰、藉用白茅、柔在下也、

よ、て、衆、陽、の、り、よ、あり、よ、れ、里、玄、履、よ、獨、立、く、な、る、と、よ、を
之、衆、人、よ、兼、順、の、は、持、よ、て、傷、た、よ、して、よ、は、あり、

○九二、枯楊生稊、老夫得其女妻、无不利、

ふよるるの時少く剛ツヨキよりなる変あまを中よん下よある陰イナ集ツるものよあこしむ故コトまたよるるの功イサよあまを楊ヤウハ湯ユ氣キハ底ソコト易ヤシキのかり陽ヤウとく後ノチよは極キョクとくとも穉コトハハ性セイ生セイまふハトなるものよ与ユまるより老夫の女メ妻ウイと極キョクとく生育セイイクの功イサとたをどく少オクてよたをけい物モノ少く中ナカよかかひるる変の極キョクて失ヒなき厚コトう小情コトハハとくよたかり

○象曰老夫女妻過以相與也 と言ハ老夫の少女とよろこび少女の老夫とよろこぶハ一ハ一ハ考のあよるる知あるぞけい物とん陰陽お与ユまるるとくとも考の道ミチよとく失ヒるき厚コトう小情コトハハとくよたかり

○九三棟橈ヒナキ 出イ けあこまぬら大過ダイカの陽ヤウとん陽の位イよ居イて剛ツヨキよりなるとまふとく一にのぞ茲ココのどく甚シ剛ツヨキよとく中ナカ和の道ミチよたがふよのハ衆人の心ココロよあがとく大過ダイカの任ニわあこらむ棟キ每オノとみくと家ウチとかくむくるがどげんゲン剛ツヨキよ甚シとくとの情コトハハ少くよたかり

○象曰棟橈之出不可有輔也 と言ハ剛強コトハハ已マゆる小依オとく人ヒト是コトをかくたまけむ棟キ橈カウて家ウチと支サシとぬとくたがどげん剛ツヨキよほこらむ人のたまけあこしとある極キョクよ然シカ

ごまにあり

○九四棟隆吉有它吝 けあし主如ハ大臣なごのニ君ナ有

位少く大過の用子ある如のよの陽剛を陰の位子居て

強さざる如子棟隆あるがどしけいおめく下の陰柔あるもの

いよかるとおく我つよたよさざるの情あてよにあり

○象曰棟隆之吉不桡乎下也 と言ハ初六の柔弱ありあ

ふいよおくれど我位かたご爰守ハ棟隆あるの如やけいおめ

陰柔の如の小志とたよまされざる情少くよにあり

○九五枯楊生華老婦得其士夫无咎无譽言けい如ハ

大過の時少當りて中凶のたご爰を尊位小あまを

めのためけい如子大過の功よほしごとく小依よの陰柔

なるものと陰陽相親とつごも枯楊生華とどく益多にぞ

士夫を老婦とむるごとく我もなけきた亦いかりざるぞけい如

と情當分よ記ゆくなるともまの遠ざる変と恐情とよま

○象曰枯楊生華何可久也老婦士夫亦可醜也 と言ハ

枯楊の根あして華をまざる変ハ久きさくあし士夫の光

婦みあしむもまのたのきあしけい如と情とよにあり

○上六過涉滅頂凶无咎 けあし主如ハ陰柔少く大

過涉滅頂凶无咎 けあし主如ハ陰柔少く大

うづらの橋にあるハ小人の帯の道より遠く正の極りあるぞ、せう極く
帯より遠く危きとわづまざるハ木と流し頂を流して、おぼや
かどいれどけいおぼやしく我れおぼやかるるハ、主僕深とさかりてま
く情どく、おぼやかり、

○象曰過涉之 山 不可咎也 といふれ、主僕深とさからむ
流してをむりて小蛇とは我れとあまき、まゆく、咎然、おぼやけい
おぼやて、まゆあさりざる、まゆとさし、まゆ、まゆ、おぼやかるる、
情ありて、まゆ、おぼやかり、

○元龜曰寒木生花之課 といふは、寒木、おぼやかり、まゆ、
まゆ、氣、おぼやかり、まゆ、おぼやかり、まゆ、おぼやかり、
強よ、おぼやかるる、まゆ、おぼやかり、まゆ、おぼやかり、

○卜解曰大過陽過陰 といふハ、陽の、おぼやかり、まゆ、おぼやかり、
おぼやかり、まゆ、おぼやかり、まゆ、おぼやかり、まゆ、おぼやかり、
て、まゆ、おぼやかり、まゆ、おぼやかり、まゆ、おぼやかり、
ゆるの、おぼやかり、まゆ、おぼやかり、

○評曰澤下有風觸事不貞 といふれ、澤の、おぼやかり、まゆ、
て、おぼやかり、おぼやかり、おぼやかり、おぼやかり、
おぼやかり、おぼやかり、おぼやかり、おぼやかり、

タイクワハ、マヤチモツトセハハタシ
○歌曰、大過憊尤甚　と云て拙をさくらふとあるてハ憊あり
ヲヒカラス
人の掩蔽とありん、他の桃李の危なごの、と云へるれざる程
小情づくふなり。

○澤雷隨

スイハ、サイニトラル、リアリ、テイニ、イシ
○繇曰、隨元亨利貞无咎、隨ハ志とがあともむぞ、君子
たるの道ハ衆人の志とあはれど、君ハ善よしあし、臣ハ命也
新く習ふよろはる、物と隨の道は、是レ人來りと物とあはる
故に物と通じ、應じては、けん物とあはる、志あると云ふ、動てよろはる、正
からざるをよしあしとせざるの情を、そをさかり。

スイハ、コク、キキ、フケル、モリニ、ウキテ、ヨロコブハスイナリ
○彖曰、隨剛柔而下柔、動而說隨　と云ハ陽剛のつとむ
よの來つて陰柔のよを、己のよしは、よする故に、いふなり。

ズットキ、イヤシキ
○象曰、隨、元亨利貞、無咎、君子之隨、元亨利貞、無咎、君子之隨、
ヨロコビ、レモ、ヤシ
物之隨、君子之隨、物之隨、君子之隨、

けこぬとありて人よ亭とありむげん持城の君子時とあり
ひまのきりきりあるごぶの情をそをなかり

○象曰澤中有雷隨君子以嚮晦入宴息サレノウチニアルハライスイシクシコレヲモツテムカウテクワイニイワテエシソクス
の中は震時ハ沢の動とあるの象と君子是をんくと時を
かくと動ととかーい宴をかくとかくとなきとありば持をそ屋ハ
強く息をなく皆ハ入くと体息して身と座まんがる格よ起居

吾よ宴よ陸あの場合をそをなかり

○初九官有渝貞吉出門交有功ハシクシアリカワリテイニツキツシイデクモシラミハハアリコト
初九官有渝貞吉出門交有功ハシクシアリカワリテイニツキツシイデクモシラミハハアリコト
休よて動のまありよよりほくさごりちる処後じくるまありむ

玄經も其からる程事あるを陸知西よささあつる時と有あり
さうぞ凡ッ人の心のあごふ如ハ是を心してハ心と情し是城
憎てハあきとまるものぞ我よ門よあくと交と云ハ私の心情を
あれて悔じれば功ありむと云義也付ハ持城よく情よく義也

○象曰官有渝從正吉也出門交有功不失也イデクモシラミハハアリコト
門よあと云て私のあごみなりして道城たじむとありと功と
あきまあつるも玄めとる心持と云よして衆人よあごふ程功あ
らむと云義也

○二係小子失丈夫ハカレバキョウシニウキフキヤウ
二係小子失丈夫ハカレバキョウシニウキフキヤウ
は南処と我よ心友と爲るものあ

遠きものありて、志近きものありて、母ひくく度あるは、心
るぞ、けん物をして、我も、白髪、赤きもの、執捨せ、私に、つらして、い
白髪よ、あつふの、情を、て、よに、あり

○象曰、係小子、弗兼與也。と云ハ、人の、あつふ、い、あ、
ま、バ、邪、あり、子、遠、ご、り、あ、つ、ま、陸、バ、善、と、失、ま、る、もの、ぞ、去、程
よ、ニ、つ、あ、つ、兼、ら、陸、の、程、を、い、ど、けん、持、ま、て、ま、い、は、陸、邪、あ、る、を
遠、ご、ご、り、執、情、を、考、へ、あ、つ、て、ま、い、あり

○六三、係丈夫、失小子、隨有未得、利居貞、
陰居申の、ま、い、の、ハ、執、獨、立、と、あ、つ、ま、る、ま、り、上、の、九、四、を、陸、よ
ろハ、陸、よ、の、宜、あり、か、る、が、い、ま、未、と、あ、ま、ま、得、と、ま、ぞ、執、其、理
よ、あ、ら、ざる、道、を、悔、げ、て、未、と、失、ま、る、ハ、邪、ハ、偏、の、教、子、し、て、
利、を、ま、る、の、私、と、い、け、ん、持、ま、て、い、ま、君、子、を、陸、の、善、を、陸、と、い、
か、る、を、捨、て、情、を、遠、と、い、に、い、ま、情、を、ま、く、ま、也

○象曰、係丈夫、志舍下也。と云ハ、其、志、よ、つ、る、の、よ、に、陸、の、
り、つ、る、の、あ、つ、ま、る、は、陸、を、捨、て、ま、く、ま、と、ま、る、あり、善、未、得、知
い、ま、ま、あ、ら、ざ、れ、バ、邪、媚、を、為、の、嫌、あり、ぞ、けん、持、ま、く、情
あ、つ、ま、あ、つ、縁、あり、て、ま、い、ま、あ、つ、の、善、あり、む

○四、隨、有、獲、貞、凶、有、孚、在、道、以、明、何、咎、
ハ、シ、タ、ツ、テ、ア、リ、ウ、ル、テ、イ、ハ、シ、
ハ、シ、タ、ツ、テ、ア、リ、ウ、ル、テ、イ、ハ、シ、
ハ、シ、タ、ツ、テ、ア、リ、ウ、ル、テ、イ、ハ、シ、
ハ、シ、タ、ツ、テ、ア、リ、ウ、ル、テ、イ、ハ、シ、

湯圓の法もたずと云ふ大臣の位もありと云は徳を國にまかすより
正もれ共危の道也けんおきて人の心我も法と云ふ正字のま
ことと好し其なきまよはれどもつるは徳の明哲の明なる道
と云ふセバ答あやしくも記あり

○象曰隨有獲其義也 有字在道明功也 といふハ
と云ふ進位も居て衆人の心もあつる契ハと云は法の得てあ
きことありと云ふと聖賢の明なる道徳あり徳の徳ありて也

○九五字于嘉吉 けあつるまは陽剛中正とて正教隨の主
と成て是位も南と云ふ善も法ひ字ありてと記ぞ人君

より衆人よありと云は道のもたハ善も法もありけん徳
ひりする中どのたゞ一きものよお慈し善も法も字ありて也

○象曰字于嘉吉位中正也 といふは中正のたゞ一き位も
あつるまは中正の道も由とハ字も法も依も名もあつる也徳共
陸も法も防とはある妙もありけん悦陸知あまバと云ふまを

あつるまはのぞけんたもてと云ふ妙も徳も情もと記あり

○上六拘係之乃從維之王用亨于西山 けんあつるまは陸
の極少く柔順なる小も其陸もと拘係が正しと云ふまを王乃

岐山ギサンあると云ふも民の陸と市も歸まらるる記と云ふけん

物と人の序如非^カ也^ニ以^テせ^ズ者^ハ随^フの情^ヲ以^テて也

○象曰、拘^レ係^レ之上^ニ窮^ス也、^{ト云ハ}主^レ係^トを固^ク拘^レ係^ガごとく^クあるは

序^ノ窮^{ナル}と云^デ、よく情^ニ非^レ命^{ナル}変^テて^レ序^トと^テよく^ク徹^スと

以^テ神^ノ明^モ通^ズる^ゴと^シて、自然^ニ人^ノ心^ノ序^ハ拘^レ係^トを

○元^ノ龜^曰、良^工琢^玉之^課、^{ト云ハ}物^ノの^次育^ヲを^磨る^ト也^ノ

み^ぐく^ハ序^トよく^ク光^アら^ハる^ト、^ゴと^ク木^ノ車^ヲ推^ク如^シと^云て、

車^ノ序^ハ拘^レ係^トが^ゴと^ク拘^レ係^トと^ラざ^ラん^ハ特^ニ少^ク也^ナり

○ト^ノ解^曰、隨^者從^也、^{ト云ハ}拘^レ係^トは^序を^動上^ハ兌^少く^ク洗^去禮

よ^ト動^クと^シて^テ洗^クある^序よ^ハ序^ノ寫^ヲを^序て^我心^ノの^ちよ^ハ序^トと^シて

順^ル者^ハ序^トの^情を^以て^シて^シる^ナり

○ト^ノ象^曰、隨^時之^義、^{ト云ハ}其^身改^變遷^移在^貴人^ト、^{ト云}ハ

時^ノの^義を^序と^シて^ハ、^{ト云ハ}其^身改^變遷^移在^貴人^ト、^{ト云}ハ

人^ノを^序と^シて^ハ、^{ト云ハ}其^身改^變遷^移在^貴人^ト、^{ト云}ハ

○十^干詩^断曰、返^目相^看、^{ト云ハ}其^身改^變遷^移在^貴人^ト、^{ト云}ハ

と^云ハ、^{ト云ハ}其^身改^變遷^移在^貴人^ト、^{ト云}ハ

と^云ハ、^{ト云ハ}其^身改^變遷^移在^貴人^ト、^{ト云}ハ

○評^曰、上^剛下^柔、^{ト云ハ}其^身改^變遷^移在^貴人^ト、^{ト云}ハ

。 予は此の如く八時の宣を叶へて改故自新と云て亦此の
からざることは改め奉りて御も我がしきりたるべき時子
身は人の子に於て是なり



132X
32/8
10